

交通系ICカードのJR駅利用

市内へのエリア拡大要望

佐世保市議会

定例佐世保市議会は16日、個人質問を実施し4人が登壇。市は、県とJR九州との3者でつくる「佐世保線等整備検討委員会」に、交通系ICカードが市内のJR駅で使えるようエリア

拡大を求める方針を示した。田山藤丸議員（自民党市民会議）の質問に、田中英隆副市長が答えた。

市によると、市内では、松浦鉄道（MR）が2020年3月、路線バスが同6月にICカードを導入。一方、JRは県内で長崎駅と大村市の竹松駅の間で対応しており、佐世保市内では

利用できない。

同検討委は、九州新幹線長崎ルートの佐世保経由が92年に見送られたことを受けて設置。JR佐世保線の高速化事業などを進めている。

田山議員は「長崎ルートの実現には（佐世保経由を

自殺対策特化計画策定へ

コロナ禍 リスクの高まり懸念

佐世保市は16日の定例市議会個人質問で、自殺対策に特化した計画をつくる方針を示した。2022年度中の策定を目指し、これまでの市の自殺対策をより具体的な内容にする。

橋之口裕太議員（自民党市民会議）の質問に野村成人保健福祉部長が答えた。市によると、21年の自殺者数は35人。リーマン・ショックが起きた08年の73人をピークにゆるやかに減少

断念した）県北地域の苦渋の決断があった。高速化事業に加え、ICカード導入も国や県に整備費の負担を求めながら検討するべきだ」と指摘。田中副市長は「九州内外からの観光客などを周遊させ、県全体に新幹線効果を波及させるためにも、ICカード導入により、利便性を向上させることが不可欠だ」と答弁。同検討委での協議を求める考えを示した。（田下寛明）

傾向だったが、新型コロナウイルス禍の生活環境の変化などを一因に自殺リスクの高まりが懸念されているという。

これまで自殺対策は市の健康増進計画の中に組み入れていた。市内では▽年代別で「60代」「80代以上」が多い▽無職者の自殺死亡率は有職者を上回る▽20、50代の男性有職者の自殺者割合が高いなどの傾向がある。新しい計画には、これらの傾向を踏まえて自殺リスクが高い高齢者の早期発見や孤立を防ぐ体制づくり、経済状況改善のための支援などを盛り込んでいく予定。

野村部長は答弁で「保健、医療、福祉、教育、労働のほかの関連施策と連携を図り官民一体となって推進していく」と述べた。（山口紗佳）

【佐世保市議会 令和4年3月定例会一般質問 3月16日 田山藤丸】

1 デジタル化と持続可能なまちづくりについて

- デジタル田園都市国家構想について
- 交通系ICカードの導入について
- 公共施設のインターネット予約、スマートロックについて
- 市役所食堂のリニューアルについて